

やすらぎ

平成 23 年 3 月 1 日
〔第 143 号〕

発行 御所モラロジー事務所 発行責任者 吉田 実
〒639-2241 奈良県御所市茅原118-1 TEL/FAX 0745-64-3030 E.mail gose-mc@m5.kcn.ne.jp

新年の集い開かれる

女性クラブ新年の集いが1月26日(水)池ノ内自治会館にて開催されました。今回は午後1時からの開催、初めての試みで、寒風吹きすさぶ寒い日にもかかわらず48名の参加者がありました。

「認知症を正しく知って予防しよう」、体と頭を使った「トリム体操」でいつまでも健康な体でいたいと願う方々で会場は熱気ムンムン。

鴻池在宅介護支援センター職員の方々のお話は現場での体験を通しての分かりやすいもので皆熱心に聞き入りました。認知度チェックでは「もう始まっているや!」の笑い声の中にも真剣そのもの。

トリム体操は河内誠子先生のご指導でタオルを使って筋肉をほぐす体操。なかなか思うように体が動かず足がタオルに引っかかったりと日ごろの運動不足が身にしみ反省しました。最後にフォークダンスで頭を使い、体を使いお隣さんとぶつかったり、思うようにチェンジ出来なかったりと苦労しながら、だんだんとスムーズに・・・盛り上がり楽しくなった頃時間となってしまい、も



う少し時間が欲しかった、心残りのトリム体操でした。

心も体も温まった後は、ビンゴゲーム、コーヒータイムでホット・・・

綺麗なお花をお土産に家路に着きました。有意義な一日でした。有り難うございました。

女性クラブ

全国青年大会 in 京滋・北陸

～ 廣池千九郎博士の青雲の志 ～

2月11日(金・祝)早朝、昨夜から降り出した雪が見慣れた景色を銀世界に変えてしまったお陰で24号線は麻痺状態。私は、本日京都で行われる全国青年大会に参加するため御所を8:00前に出発し、郡山事務所に向かったのですが、集合時間に遅れて到着したのが9:30すぎになりました。

郡山から車3台に分乗し京都に向けて出発。「こんな状況でも、青年大会が行われるの

か?」と心配しながら奈良を過ぎ京都に近づにつれ雪が段々少なくなり、京都市内は全く雪が積もっていない状況でした。「こんな不思議なコトがあるのか?」と何か偉大な力に守られ、導かれている感じを抱きました。

予想に反し、11:00すぎに到着し円山公園近くのお店で湯豆腐を頂き、青年大会が行われる会場京都市勧業館みやこめっせに到着したのが、14:00頃でした。

開会は 15:00 で、会場には全国から 750 名の青年が集まってきました。

開会式終了後、道徳科学研究センター研究員 橋本富太郎講師の講義があり、講義は「廣池博士の青雲の志に学ぶ」と題し博士の京都時代の様子や志について詳しく説明して頂きました。講義は「建国記念の日にあたって」と題し建国記念の日の意義や経緯など知らない事を教えて頂きました。

18:00 から会場隣のホールに移動して懇親会が行われ、廣池理事長も参加されての青年交流会となりました。21:00 に宿泊ホテルに別れ、今度は近畿ブロックの青年交流会があり、夜遅くまで盛り上がっていました。

翌朝は、8:00 に出発。観光バス 15 台に別れて京都御所、平安神宮、そして廣池博士がお住まいになった妙雲院の一室を見学させていただきました。

なかでも、頂妙寺別院・妙雲院は博士が困窮を極めていた頃、六畳一間に家族 3 人で住まわれていた当時から変わらない部屋に入りガイドさんから説明を受けました。

私は天井を見上げ「この天井を見上げながら廣池博士も頑張っておられたのか!!」と想うと不思議な気持ち（心地よい勇気）になったことを今でも覚えています。

明治 27 年（1894）4 月から翌 28 年 5 月まで住まわれていたそうで、またこの部屋に井上頼因法学博士が訪ねて来られ直（じか）に会われた場所だと聞きました。

まさしくこの場所が、廣池博士の転機。「天命が降ってきたところ」だと思いました。今回、私にとって貴重な経験をさせていただきました。

12:00 に閉会式を終え、平安神宮にて記念撮影をして解散させていただきました。

今回の青年大会は、今までの京都のイメージをがらっと変える二日間になりました。多くの気付きを胸にまた頑張ろうと思います。

たくさんの皆様のお陰で心に残る青年大会になりました。ありがとうございました。

次回は、来年 2 月南関東で青年大会が行われる予定です。

細川成樹



大国見山（15キロ）ハイキング

年末の慌しさも過ぎ、正月も明けた1月23日総勢3名という少なき人数ながらもウォークをしてきました。

徐々に天候に恵まれ1月なれど日差しは明るく、朝8時事務所を出発しました。

天理教本部を通り石上神宮の駐車場に車を止めさせていただき、神鶏がカッポして



いる境内を通り、本殿に今日の安全をお祈りしてから、林の中の石畳を直進して行

くと村落に出ました。村落の向こうに見える朝の陽光に煙る山が神山、大国見山(500m)です。

足取り軽く東海自然歩道の梅畑の細道に入り、モリアオガエル、コメホタルの生息地である布留川に架かる橋を渡り、川にそうて滝本町の町並を見ながら少し道なりに歩く。

ヤマトハムの製造所を右に天理の水がめである浄水道を左に見ながら、R25から左、桃尾の滝へと続く山道に差し掛かる。登って行くとうっそうとした杉木立の奥まった断崖絶壁に桃尾の滝がありました。

日本唯一最古の歴史ある大霊山、奥の院の身禊の滝、往者大宮人や善男善女はこの滝で身を清めて大親寺へ参拝せられたとのこと。

厳かな滝を右に見、急な坂道を上る。傍らには仏像が立ち並び、そのお顔ははるかインドから伝わりカンボジアのアンコールワットで見たようであったり、どこかの道端で出会ったお地蔵様のようにであったり、また仏様のようにであったりと、そんなことなど思いながら歩いていたら大親寺に着いた。

このお寺は義淵(ぎえん)という傑僧が小堂を建てたのが始まりで龍福寺と云い、

その後行基が後を慕い堂塔を建立、大伽藍を完成しました。しかしながら、明治の廃仏毀釈により、ここも廃寺となったそうです。今はあちらこちらに残る石垣や苔むした庭の名残に面影を偲ぶしかありません。

歩を進め、ゆっくり坂道を上がって行くと巨岩に出くわした。側を通り過ぎ、枯れ葉に足を滑らしながらさらに行くと頂上に着いた。頂上には小さな祠があり、眺望は西に開け、天理市街から、遠くは二上、金剛、葛城、生駒まで見えました。ここで昼食とする。山の上の食事はまた格別。

帰路は岩屋町への分岐まで戻り、岩屋樺本2.2km 大国見山1.4km、岩屋樺本2km 大国見山1.6km、といった標識を頼りに名阪国道まで下りる。そこからぶらぶらと畑の間を通り、長閑な佇まいの岩屋の集落の中を通り抜け、国道を道なりに南へ南へと景色を楽しみながら行くと石上神宮に着きました。

徐々に身も心も伸び伸びした一日でした。皆様も一緒に歩きませんか！！一歩外へ！！一人でも多くの参加をお待ちしています。有り難うございました。

上島



運営委員会報告

開催日時 平成 23 年 2 月 22 日 (火)
20:00 ~ 21:00

場所 御所モラロジー事務所

出席者 吉田実、細川家成、川崎徹、南貞好、
米田徳七郎、山下幸則、上田均、細川
成樹、森戸清重 9 名

代表世話人挨拶

昨日は和歌山県南部、そして今日はニュー
ージランドで地震がありました。また、
世界各地でデモが起っています。この
ような時代にこそ、私たちモラロジアン
の活躍の場があります。心新たにして頑
張りましょう。

審議事項

1. 平成 23 年度行事計画 (継続審議)

1 月の運営委員会で審議した通り、平成
23 年度行事計画(案)と教育活動目標設
定を 2 月 25 日(金)までに近畿ブロック
へ提出する。

2. 平成 23 年度事務所役割について

新代表世話人と新副代表世話人を中心と
して、新しい役割を決める。

3. 代表世話人就退任式について

代表世話人就退任式実行委員会を設立し、
内容等を進めていく。実行委員は、細川

家成(参与)、富士俊隆(研修委員長)、山下
幸則(会計委員長)、上田均(社会貢献委員
長)、田村佳世(女性クラブ長)、南貞好(総
務委員長)

4. 平成 23 年度事務所総会開催について

- ・ 4 月 12 日(火) 19:30 から総会と
懇親会を行う。
- ・ 当日のスケジュールを総務委員会で
検討し、3 月の運営委員会に諮る。
- ・ 懇親会は、茶菓子のみでアルコール
は無し。
- ・ 各委員長は平成 22 年度事業経過報
告と平成 23 年度事業計画案を 300
文字程度の文章にまとめて 3 月 22 日
(火)までに総務委員長まで届ける。
- ・ 4 月 6 日(水) 20:00 から臨時運営
委員会で総会案件を諮り、8 日(金)
20:00 から資料づくりを行う。
- ・ 会員総数は、91 名。(平成 23 年 2
月 22 日(火)現在)
- ・ 総会案内は、往復はがきで 3 月 25
日(火)に発送し、4 月 5 日(火)必着で
出欠の回答を得る。

2 月 12 日、25 人で恒例の厳冬期大峰登山を行ないました。今年は
雪が多く、洞辻茶屋で 1.5m。残念ながら頂上までは行けず、8 合
目とも言える鐘掛岩で引き返しました。 とく



清浄大橋で氣勢を上げる